



# 2024

## 大幸グループ サステナビリティレポート

circulation of industrial resources

よりよい経済・環境・社会をめざして



だいちくん

みらいちゃん



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

【お問い合わせ先】  
大幸グループ CSR 事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号  
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

■携帯電話からのアクセス  
e-mail: [sea-mew@daiko-group.com](mailto:sea-mew@daiko-group.com)  
右のバーコードを対応端末で読みとっていただければ、  
直接サイトにアクセスできます。  
<http://www.daiko-group.com/>



この印刷物は環境に配慮した「ベジタブルインキ」で印刷されています。

弊社は暴力団等反社会的勢力との取り引きは一切行いません（ホームページ掲載）

2025.1.1000

鳥取砂丘



再資源化事業を担う  
企業グループとして  
持続可能性に配慮した  
サステナビリティ経営を  
さらに推進します。

企業理念

私達は「地球を大切に」という合い言葉のもとに地球環境時代にふさわしい企業をめざしています。リサイクル技術の開発など、産業廃棄物を地球にやさしく還す方法を常に追い求め、この大切な地球環境をすばらしい状態で未来に残したいと心から願う人間の集まりです。

独自の技術で CO<sub>2</sub>を固定化しカーボンニュートラルに貢献

「再資源化事業等高度化法」公布の背景に脱炭素化が挙げられるように、私たちの業界においてカーボンニュートラルへの取り組みは、事業を継続するうえで不可欠なものになっています。2023年のCSR報告書に記載したように、当社はカーボンニュートラル実現に向けて再生土の製造過程でのCO<sub>2</sub>固定化の研究開発に長年にわたって取り組み、2021年からの4年間で10,702tのCO<sub>2</sub>を固定化してきました。

このCO<sub>2</sub>固定化技術の研究は大学等の研究機関でも

認められており、当社は再生土の生産過程でのCO<sub>2</sub>固定化をさらに推進し、地球温暖化防止に貢献していきます。

さらに、当社は20年以上前から太陽光の熱エネルギーを活用する独自の研究開発に取り組んでいます。すでに試作機が完成し実用化に近づいています。従来の太陽光パネルによる発電や海水淡水化装置導入によるCO<sub>2</sub>削減に加え、新たな技術を駆使してカーボンニュートラルの実現に向けて取り組んでいきます。

資源循環に向けた法整備がいよいよ整う

2013年に「CSR報告書」を創刊して以来、大幸グループは資源循環型社会の実現を一貫して掲げ、処理業から製造業への転換を進めてきました。また、業界団体（現：公益社団法人全国産業資源循環連合会）を通して国に資源循環の法整備の必要性を訴えてきました。そうした活動の集大成となる「再資源化事業等高度化法（仮称）」がいよいよ2025年に施行されることとなりました。

この法律は、カーボンニュートラルだけでなく経済安全保障や地方創生など社会的課題の解決に貢献することを目的として、再資源化事業の高度化を促進し、資源循環産業の発展を目指すものです。特にポイントとなるのは、高度なリサイクル品として環境省の製造認可を受ければ、日本全国どこでも販売できることです。これにより、私たちの業界は資源循環を担う製造業としての役割が期待されます。

当社は再生土「ポリアース」を月間数千トン出荷し、建設汚泥から製造する流動化処理土「ポリソイル」を日量300㎡生産するなど、業界に先駆けてリサイクル製品の製造業としての実績を積み上げています。また、資源循環の本命となる「ハイブリッドソイル」の生産準備を着実に進めています。

製造業になれば、生産するリサイクル製品の安全や品質を担保する製造者責任が発生します。当社は出荷する前に製品を厳密に分析するなど、徹底した品質安全管理を行っています。また、法律が制定されると新規参入業者が増加し、競争が激化することも想定されます。当社は処理業として長年培ってきたお客さまからの信頼とリサイクル製品の高度な生産技術を基に、排出側であるお客さまとの連携、つまり動脈（排出事業者）と静脈（処理・リサイクル事業者）の連携によって、資源循環ビジネスを発展させていきます。

お客さま、地域の皆さまと一体となって持続可能な社会の実現を目指します



資源の乏しい日本において、地球環境に配慮した資源循環は持続可能な社会を実現していくうえでなくてはならない産業です。その産業を担う私たち大幸グループも、持続可能な企業でなければなりません。そのために、地球環境に配慮した事業活動を進めるとともに、巨大地震や猛烈な台風など大規模災害に備えた防災対策やBCP（事業継続計画）の策定、地域社会への貢献、

健康とワークライフバランスに配慮した職場環境の整備など、環境・社会・経済の持続可能性に配慮したサステナビリティ経営を一層推進していきます。

本誌は今年度より「CSR報告書」から「サステナビリティレポート」と改訂し、企業として持続可能な社会を目指す意思をより明確にしました。幅広い取り組みを紹介していますので、ぜひご一読いただければ幸いです。

大幸グループは、お客さま、地域の皆さまと一体となって持続可能な社会の実現に取り組んでまいります。どうか一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

大幸工業株式会社 代表取締役  
大阪ベントナイト事業協同組合 代表理事

浜野 廣美

# 環境・社会・経済の持続可能性に配慮し 「人のつながり」を重視して新時代へ



大幸工業株式会社 常務取締役  
大阪ベントナイト事業協同組合 理事

浜野 真季

## 従来の枠組みを越え、人の輪を構築する

2023年は、コロナ禍の収束に伴い、防災活動・環境イベントをはじめとする多様な事業、地域活動を活性化してきましたが、2024年は平常時の落ち着きを取り戻し、「人のつながり」をキーワードにプロジェクトを展開しました。

大幸グループは、地球環境に配慮した形で事業継続を行い、CO<sub>2</sub>削減を推進しています。その一環として、環境先進国スウェーデンの大型車両2台目を導入し、ドライバーから走行時の燃費向上、現場作業時のエンジン回転数減少を実感する旨、報告を受けています。津波避難ビル兼車庫センター内に設けた「こどもベジタブル・ガーデン」では地域の子もたちと、無農薬で育てた作物

の収穫を行っていますが、今後子どもたちが作物を販売し売上を寄付するマルシェ構想を実現したいと思いついて描いています。

2024年夏には、大阪市消防局との災害協定締結(2023年)後、初めて要請を受け、電気自動車火災の鎮火支援を実施しました。また、官民・地域連携による第2回「大幸グループ防災フェスタ」を開催し、会場となる津波避難ビルの周知と防災意識向上を地域で進めています。災害時に生命を守るためには各組織や住民の連携が不可欠であり、これまでの枠組みを越えた「つながり」を築くことが重要だと思えます。

## 地道な地域・環境活動が新たな可能性を育む

組織は人がいなければ成り立たず、持続することもできません。今の時代、多様な人材が長く働き続けられるよう、従業員の育児・介護など各自の状況に柔軟な対応が求められています。新人から嘱託従業員まで、互いを助け合い、認め合う組織を目指していきます。

人材の採用については順調に応募があり、内定者に志望動機を尋ねると「地域・社会貢献できる組織だから」との回答が複数、聞かれました。地道に続けてきた活動が共感を呼び、人のつながりを広げていく。そんな新

しい流れを感じています。

グループ外においても、環境対策協議会(KTK)、全国・大阪府の公益社団法人産業資源循環連合会女性部などの活動に参加することで、さまざまな情報、事業のヒントを得ることができました。官民を問わず、人の輪を広げることで新たな可能性が生まれ、環境・社会・経済の持続可能性に貢献できると考えています。今後とも、ご指導・ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願いたします。

## 2024 大幸グループ サステナビリティレポート / 環境省・環境報告ガイドライン(2018年版) 対照表

大幸グループの環境情報から、環境省「環境報告ガイドライン2018年版」の項目・指標と対照する当社グループ報告書の該当箇所を対照表としてまとめましたので報告します。

開示事項	ページ	CONTENTS
環境報告の記載事項		
1. 経営責任者のコミットメント	1~3	TOP MESSAGE / 新時代に向けての取り組み
2. ガバナンス	20~24	従業員と共に
3. ステークホルダーエンゲージメントの状況	—	—
4. リスクマネジメント	9~10,13~19,24~26	環境負荷軽減 / 防災 / 労働安全 / KTKの活動※
5. ビジネスモデル	2,30	企業理念 / 大幸グループ事業概要
6. パリチェーンマネジメント	—	—
7. 長期ビジョン	2	企業理念
8. 戦略	5~8,11~12,27	カーボンニュートラル(CO <sub>2</sub> 固定) / 環境教育 / 環境方針・認証 / ESD 支援
9. 重要な環境課題の特定方法	—	—
10. 事業者の重要な環境課題	9~12	環境負荷軽減 / 環境方針・認証

※KTK: 大阪ベントナイト事業協同組合環境対策協議会

## 2024 大幸グループ サステナビリティレポート対照表に関する第三者所見

大幸グループでは、企業視点で環境問題の取り組み内容を報告する「CSR 報告書」を発展させ、社会からみた企業に対する視点を目指して、「環境省・環境報告ガイドライン(2018年版)対照表」に従って「サステナビリティレポート」を制作されていることが最大の特徴です。

環境報告書は、環境配慮促進法第2条で規定される国立大学等の特定事業者は、同法第9条により環境報告書を作成し、毎年度公表することが求められていますが、一般の中小事業者等の事業者に対しては求められておりません。

大幸グループが、あえてガイドライン(2018年版)

対照表に従って「サステナビリティレポート」制作に至ったことから、廃棄物処理法(環境省)管轄で厳しく管理される建設汚泥収集運搬・再生処理のリーディングカンパニーとして、静脈物流業界を率先して、持続可能な社会を実現する強い意志が感じられます。また、新たな製造物責任法(消費者庁)管轄で、次元が全く異なる動脈物流に新規参入し、環境問題を始め、現代社会における様々な問題を、自らの問題として主体的に捉え、身近なところから取り組む姿勢が感じられます。大幸グループのさらなる発展を期待します。

### (勝見 武氏プロフィール)

1989年京都大学工学部卒業、2009年同大学院地球環境学堂教授、2020年同地球環境学堂長。2012年日本学術振興会賞。国土交通省建設リサイクル推進施策検討小委員会委員長(2019年度~)、環境省中央環境審議会土壌制度小委員会委員(2024年度~)、地盤工学会副会長(2022~23年度)、土木学会副会長(2024年度~)など。

京都大学  
大学院地球環境学堂  
教授 勝見 武



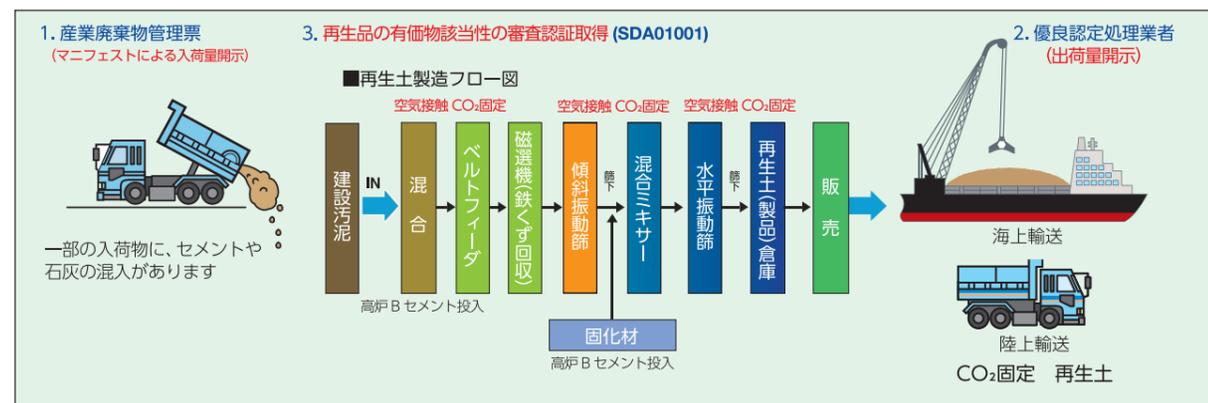
## サステナビリティ社会の実現に貢献する 堺プラントにおける CO<sub>2</sub>固定化

大幸グループ 堺プラントでは、資源循環型社会およびカーボンニュートラルの実現を目指し、長年にわたり再生土の製造過程における CO<sub>2</sub>固定化に取り組んできました。CO<sub>2</sub>を再生土に閉じ込め大気への放出を防ぐことで、脱炭素社会の形成に資することができます。さらに、太陽光発電や海水淡水化装置、製品の海上輸送によって環境負荷を低減。こうしたシステムの構築により長期的な価値を創出し、経済・社会・環境の全方位的な観点からサステナビリティ経営を推進します。

### 建設汚泥の再生処理工程で CO<sub>2</sub>を固定しカーボンニュートラルを目指す

大幸グループ 大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラントは、廃棄物処理法で厳密に管理された中間処理プラントです(図解参照)。また、リサイクル製品の再生土「ポリアース」を海上輸送し、流動化処理土「ポリソイル」の出荷を行っています。堺プラントでは、建設工事等の掘削現場から生じる建設汚泥を8cm以下に砕き、高炉

セメントを混ぜて固化処理します。再生処理工程では、建設汚泥を何度も空気に接触させて自然乾燥を促しますが、このとき、空気に含まれる CO<sub>2</sub>も同時に炭酸塩化反応で固定します。すなわち、CO<sub>2</sub>を再生土に固定化する技術を開発し、カーボンニュートラル実現に寄与しています。



図解：堺プラント概要図

### 〈法律と公的第三者でトレーサビリティが担保された堺プラント〉

堺プラントは、1990年度の廃棄物処理法改正により制定された産業廃棄物管理票(マニフェスト)で入荷量を開示しています。また、優良な産業廃棄物処理業者を都道府県・政令市が認定する優良産廃処理業者認定制度により、2011年に堺市より認定を受け、再生土の出荷量を開示。



さらに2022年、再生土の有価物該当性に係る審査認証取得(SDA01001)を取得しました。2021年から2024年にかけて製造した再生土の累計は

594,585tであり、法律と公的第三者によってトレーサビリティが担保されています。

### 建設汚泥「0円/tのCO<sub>2</sub>固定再生土」

大幸グループの再生処理工程では、建設汚泥を何度も空気に接触させ自然乾燥時に、CO<sub>2</sub>ガスも同時に炭酸塩化反応で固定するため、風力調整などの機械的操作は一切行っていません。いわば、再生土「ポリアース」は『0円/tのCO<sub>2</sub>固定再生土』と呼ぶことができます。2021年から4年間で10,702tのCO<sub>2</sub>を固定しました。

再生土「ポリアース」CO<sub>2</sub>固定量

	再生土製造量	CO <sub>2</sub> 固定量
2021年	203,840 t	3,669 t
2022年	101,943 t	1,835 t
2023年	123,327 t	2,220 t
2024年	165,475 t	2,978 t
累計	594,585 t	10,702 t

### 第59回地盤工学研究発表会に参加

2024年7月23日～26日、旭川市で開催された第59回地盤工学研究発表会のディスカッションセッション「地球環境問題の解決に向けた環境地盤工学の新たな展開」(座長：国立環境研究所 福島地域協働研究拠点 遠藤和人氏)において、堺プラントの事例をもとに「カーボンニュートラルを目指した、法律と公的第三者と科学的に担保された、建設汚泥『0円/tのCO<sub>2</sub>固定・再生処理土』」の発表が行われました。大幸工業株式会社 常務取締役 浜野真季も登壇し、ディスカッションセッションに参加しました。



発表を行う様子

### CO<sub>2</sub>固定化、地域環境教育等の事業を評価。各自が考え行動し、その経験を伝えて。

大幸グループにおける「再生土の製造過程でのCO<sub>2</sub>固定化」、「太陽光パネルによる発電や海水淡水化装置導入」、「泥だんご教室」の事業は、地球の物質循環に関係しています。CO<sub>2</sub>は、大気、水、土の中で形を変えながら循環しています。カーボンニュートラル実現に向けたこれらの事業は、人間生活を含めた地球の物質循環に関係した持続可能性の取り組みとして期待できます。

また、「道路清掃キャンペーン」、「こどもベジタブルガーデン」、「寄せ植え教室」、「防災フェスタ」に関して、環境意識の高い社員が地域住民等と連携し取り組むことにより相乗効果がもたらされています。環境教育においては一人ひとりが自ら考え能動的に行動できることから始まります。そして、自らの経験を伝えることで他者の行動変容につながり、さらにその輪を広げていくことが大切となります。各事業において持続可能な環境活動という大きなテーマを参加者が互いに意識し、環境意識を高めることができる事業といえます。

(プロフィール)

大阪大谷大学 教育学部 学部長・教授。博士(理学)。大学在学時は理学部 理学研究科に所属し、環境問題や自然災害に関して粘土鉱物を中心に研究。現在は教員として教育学部に所属、保育士や教員養成に携わり、環境教育や防災教育に関して実践研究を行う。



大阪大谷大学  
教育学部 学部長 教授  
地下 まゆみ



# 地域の子どもたちと共に 持続可能な環境づくりを考える

大幸グループでは、地域住民と共にサステナブル社会を実現するための事業に取り組んでいます。とりわけ、将来を担う子どもたちの環境教育を重視し、ゴミの減量、土と作物を考えるイベントを通して、持続可能な未来のまちづくりを目指していきます。

## こどもベジタブル・ガーデン

2023年より、大幸グループの車輛センター内に、リサイクル土を用いた野菜畑を設け、地元の子どもたちと栽培・収穫を行っています。前年のサツマイモに続き、2024年4月には地域の小学生がタマネギを収穫。また9月に、ジャガイモの植え付けを実施し、追肥・雑草引きの後、畝に被せた黒いビニール（マルチング）をはがして、12月中旬に収穫を行いました。高い環境意識を持つ従業員が、地域の子どもたちと協働し、その経験を家庭や職場で伝えあうことで、シナジー効果を生み出すことが目的です。なお、環境教育の広がりを図るため、収穫したジャガイモをコロケの材料として調理し、大幸グループ従業員に振る舞うほか、地域のふれあいイベント「ひら茶」の食事会に提供しました。

今後、子どもマルシェを開いて作物を販売し、売り上げを寄付するプランを立案中です。車輛センターは、地域の「津波避難ビル」を兼ねていることから、ビルの存在と場所を認識してもらい、緊急時の避難行動に役立つ目的も担っています。



ジャガイモを間引く「芽下かき」作業



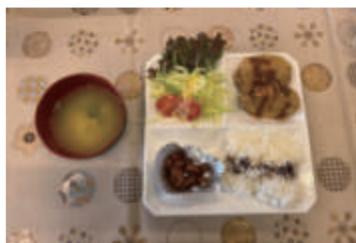
4月19日のタマネギ収穫



ジャガイモ収穫の様子



冬に植え付け、追肥・草引きなどを経て春に収穫



平林地域のふれあい喫茶「ひら茶」に向け、収穫したジャガイモをコロケの材料として提供（2025年2月）



大幸グループ従業員も地域住民、住之江区社会福祉協議会・区役所などの皆さんと共に「ひら茶」でコロケ料理を堪能



## KTK 道路清掃美化キャンペーン

大幸グループを中心に取り組む KTK 道路清掃美化キャンペーン（環境対策協議会主催）は、環境について考え、持続可能なまちづくりに貢献する取り組みで、子どもたちを含む地域全体の生涯学習の場ともなっています。2004年（平成16年）にスタートし、コロナ禍による中断を経て2023年に再開、17回目となる2024年は10月27日に約220人が参加して開催しました。

当日は、大幸グループ、KTK 会員企業の社員・家族に加え、地元町会や自治体、その他賛同の方々が息を合わせてごみを拾い、2トトラック3台分を回収。清掃終了後は大幸グループの車輛センターで懇親会を行い、屋台フードのランチタイムを楽しみました。子どもたちは、この日の感想を文章やイラストで描き、ごみの多さや環境について友達や家族と一緒に考えました。



5班に分かれ、歩道や緑地帯を清掃



清掃終了後の懇親会屋台ゾーンでフードとドリンクを提供

### こどもたちの感想文

カラフルなイラストと共に「きれいになってうれしい」などの言葉が寄せられました



ごみひろいをしていっぱいきれいになってうれしかったです。今度は今日よりたくさんとりたいたいです。(10歳)



たのしかったです。バスでも楽しかったです。ありがとうが言えます。5歳



ごみひろい たのしかったです。(4歳)

# 環境負荷に対する活動の目標と実績のサステナビリティ

地球環境の将来を考え、その基盤となる事業を推進する企業として、事業推進で生じるさまざまな環境負荷に対しては、全社、あるいは事業所、部署ごとの課題を抽出し、年度ごとの取り組みを進めています。



## 環境データ

南港処理センター（各項目月1回実施）

項目	単位	廃棄物処理法基準値	最終処分場受入基準	測定値	
				最小値	最大値
カドミウム	mg/L	0.09	0.09	<0.01	0.01
鉛	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
六価クロム	mg/L	1.5	0.5	<0.05	<0.05
砒素	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
セレン	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
シアン	mg/L	1	1	<0.1	<0.1
熱灼減量	%	-	15	4.5	12.4

泉プラント（各項目月1回実施）

項目	単位	廃棄物処理法基準値	最終処分場受入基準	測定値	
				最小値	最大値
カドミウム	mg/L	0.09	0.09	<0.01	<0.01
鉛	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
六価クロム	mg/L	1.5	0.5	<0.05	<0.05
砒素	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
セレン	mg/L	0.3	0.3	<0.01	<0.01
シアン	mg/L	1	1	<0.1	<0.1
熱灼減量	%	-	15	3.5	13.6

## 物品のリサイクル活動

私たちは、資源の新たな可能性と価値の発見に取り組む組織として、身近なすべてのものを注意深く見つめ、再利用を図っています。



使用済み切手も、キロ単位の重さになると換金され寄付に用いることができます。回収された使用済み切手は、ボランティア組織から切手商の手を経て、切手コレクターに渡ります。このことで新たな価値を生み出し、換金・寄付によって困窮する世界の人々の役に立ちます。

事務用品や衛生用品の梱包材など、事業活動で発生するダンボールも環境資源と考え、2014年からリサイクル活動をスタートしました。2024年(1月～12月)は約200kgのダンボールを再資源化。備品・消耗品の荷ほどき後、ダンボールを所定の位置に運ぶという「ひと手間」の慣習化により、従業員の環境意識が高まりを見せています。

## 2024年目標とその成果

目的	目標値	具体的実施方法	評価
<b>南港処理センター</b>			
無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	■■■
河川水使用量の削減	月間使用量を目標値までに抑える	構内散水の節約・放流水の制限	■■
法規制の順守	下水排水規制値を順守する	内部分析・外部分析	■■■
法規制の順守	埋立基準値を順守する	内部分析・外部分析	■■■
地域との共存共栄の推進	近隣からの苦情ゼロを目指す	工場付近の定期清掃・近隣の意見を聞く	■■
<b>泉プラント</b>			
無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	■■■
作業員のレベルアップ	社外研修の参加	設備に合わせた社外研修の実施	■■
薬品使用量の削減	薬品使用量を目標値までに抑える	処理手順の見直し・サンプル実験の実施	■■
法規制の順守	埋立基準値を順守する	内部分析・外部分析	■■■
重機の延命化	重機故障ゼロを目指す	定期清掃・点検の見直し・強化	■■
<b>堺プラント</b>			
無事故無災害を目指す	1年間無事故無災害	順守事項の徹底・類似事故再発防止	■■■
設備機器の理解	1つの設備ごとに見直し研修を開催する	メーカーのマニュアルを使用して研修を行う	■■
再生品の品質確保	社内基準値を順守する	内部分析・外部分析	■■■
設備の月間点検	月1回実施	月間点検記録の内容に従って実施	■■■
再生品の販売量確保	一定量の販売を確保	取引の強化・見直し	■■■
<b>本社</b>			
社員のレベルアップ	法改正に関するセミナーに参加する	セミナーの調査、研修申込等	■■
電子マニフェストの推進	紙マニフェストからの移行	顧客との交渉	■■
<b>運輸部</b>			
情報公開 顧客サービスの充実	優良処理業者の維持	産廃ネット更新、許可更新での申請	■■■
残業時間の軽減	全運転手の月残業を目標値以内にする	配車計画の効率化	■■■
法令の順守	交通違反・交通事故ゼロを目指す	道交法の順守、社員教育など	■■
指針12項目教育	月1回実施	社員教育の実施	■■■

■ 目標未達成 ■■■ 目標ほぼ達成 ■■■■ 目標達成

# 揺るぎない環境理念に根ざして

2024年(令和5年)度の大幸工業株式会社・大阪ベントナイト事業協同組合の環境方針が示され、地球環境の保全・循環型社会構築を目指して、事業の主軸を据え組織強化を図り、顧客サービスをさらに充実することが改めて確認されました。

## 年度方針・環境方針

- 社長方針 「環境」**
- 一、自然環境に向けた需要環境整備を目指す
  - 一、環境配慮型製品のさらなる開発を目指す
  - 一、社員で築く元気で明るい職場環境を目指す

**環境方針** 私たちは、地球の環境保全、持続可能な社会の実現が人類共通の最重要課題であることを認識し、廃棄物の適正処理、リサイクル技術及びリサイクルシステムの研究開発に取り組み、循環型社会の形成に貢献します。

## ISOスローガン 「考えよう 一人ひとりができるエコ」

### 1 安全・安定操業の確保

- ① 教育・訓練を充実し個々のレベルアップを図る。
  - ・社外研修会等へ積極的に参加しレベルアップを図る。
- ② 事故・トラブルの原因を徹底究明し再発を防止する。
  - ・事故対策会議を実施し類似事故の再発を防止する。

### 2 組織の強化と業績改善の推進

- ① 法令順守と情報公開
  - ・産廃ネット等での情報公開を推進し企業イメージのアップを図る。
  - ・電子マニフェスト化の推進等により法令順守意識の高揚を図る。
  - ・トラック運転者に対する改善基準告知を順守する。
- ② 業績改善の推進
  - ・業績改善提案制度を推進し、全員参加で業績改善に取り組む。
  - ・ISO活動を継続し、業務の標準化と文書管理の簡素化を推進する。
  - ・リサイクル製品の品質向上を図り、顧客満足向上に努める。

### 3 「地球を大切に」を合言葉に、循環型社会の構築を推進する。

- ① 車両・重機の燃料効率の向上
  - ・エコドライブの実践 — 急発進・急加速防止・アイドリングストップに務める。
  - ・低燃費・低排出ガス基準達成車の導入を推進。
- ② 地域との共存共栄の推進
  - ・道路美化運動等に積極的に参加し、地域貢献に努める。

### 4 顧客サービスの充実

- ① 顧客ニーズに対応した処理システムの開発
  - ・3Rコスト削減等の顧客ニーズに即応したリサイクルシステムの開発を推進する。

## 環境マネジメント・認証取得

### ISO 取得状況

大幸グループは、総括的な企業風土、従業員個人の社会貢献意欲を含めたあらゆる側面において、「地球・産業・暮らしの調和」を目指しています。こうした指針により、業界に先駆けて ISO9001、ISO14001 の認証を取得し、環境マネジメントの社内体制を整備。リデュース・リユース・リサイクルの徹底を図るとともに、地球環境保全に役立つ技術と製品の開発に努めています。

### 内部環境監査

ISO9001、ISO14001 取得を早期に果たした大幸グループ各事業所では、環境マネジメントシステムのPDCA サイクルに基づき、内部監査を実施。環境実績の組織的・継続的な改善システム、実績向上の推移、法規制順守などに関する審査を実施しています。

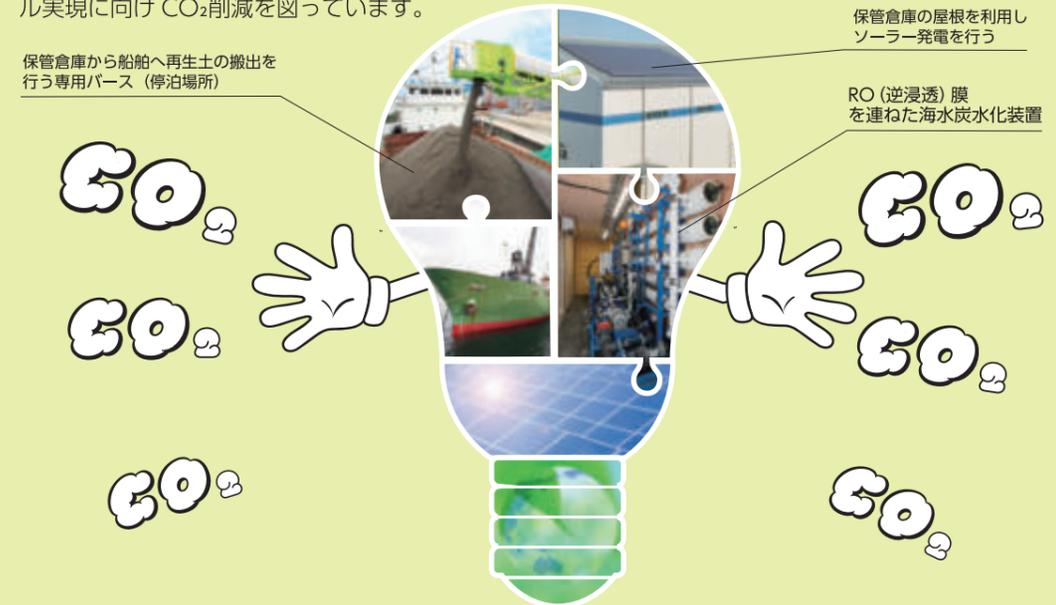
### 外部環境監査

内部環境監査に加え、環境マネジメントシステムの有効性を確認するため、認証機関の BM トラダ・ジャパンによる監査を受けています。例年、審査結果をもとに指摘事項の改善を実施し、環境マネジメントシステムの有効かつ適正な運用によって認証登録を更新しています。

## 《コラム：CO<sub>2</sub>削減対策》

### ■太陽光パネルと海水淡水化装置、製品海上輸送

大幸グループ 大阪ベントナイト事業協同組合 堺プラントでは、太陽光発電の導入、再生土の海上輸送を行うなど、CO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。2022年には、流動化処理土の製造等に必要の用水を得るため、堺プラントに海水淡水化装置を導入。従来の車両輸送に替わる用水確保の手段とし、カーボンニュートラル実現に向けCO<sub>2</sub>削減を図っています。



# 防災 BCP経営と防災・減災対策

防災訓練

## 大幸工業株式会社 × 住之江消防署 2024年 大幸グループ防災フェスタ開催

大幸グループでは、経済・環境・社会の観点から持続可能な開発を目指し、資源循環ビジネス、BCP（事業継続計画）、地域防災活動などに取り組んでいます。2024年12月には、大阪市住之江消防署との協働により「2024年大幸グループ防災フェスタ（以下「防災フェスタ」）を開催、子どもたちが楽しみながら防災・減災を学び、考え、行動する機会となりました。



防災フェスタは、①地域の皆さまに「避難ビル」を知っていただくこと、②子どもたちが自ら考える力、人間力を養うよう導くこと、③イベントを通じて、地域・消防・当社従業員が顔見知りとなり、避難行動の迅速化を図ることを目的とします。当日は、下記《第1部》《第2部》の各プログラムが繰り広げられました。

12月8日、大幸グループの拠点地域にある平林小学校・新北島中学の児童・生徒、大幸グループ従業員等の子どもと保護者、合計約80人が「津波避難ビル兼 車輛センター（以下「避難ビル」）に集まり、6つのブースで防災プログラムを体験。2回目となる今年は、「起震車（地震体験）」のブースが新たに登場し、最大振動7の揺れを体感しました。

防災フェスタは、大幸工業株式会社 常務取締役・浜野真季が司会を務め、同社代表取締役・浜野廣美が開会の挨拶を述べました。また、来賓として、住之江区のさざんか平林協議会・松浦正明会長、住之江消防署・松倉良友署長、KTK 防災対策実行委員会・乾徹委員長、大阪大谷大学 教育学部・地下まゆみ学部長（教授）が参加。閉会時には乾委員長から「災害は夜中など何時に起こるか分かりません。家族で防災意識を高め、訓練を繰り返していただくことが大切です」とコメントをいただきました。

この訓練の前身は、2018年11月、「避難ビル」建設着手を機にスタートした「防災訓練（KTK 防災対策実行

住之江区役所、住之江消防署との協働による「合同防災訓練」として実施し、防災フェスタに発展する礎石となりました。

### 《第1部》一般参加

消防署の「はしご車」乗車体験を実施するほか、スタンラリー形式で、「ミニミニ消防車（バッテリーカー）」「けむりテント」「水消火器」「消防車放水」「起震車」の各体験ブースを自由にめぐるプログラム。スタンプを集めるとプレゼントが贈呈されます。各ブースで消防士の方々に指導いただき、消防・防火活動を学ぶことができました。



■はしご車の乗車体験  
ヘルメットを着用し、はしご車を体験



■起震車  
家庭をイメージした車内で震度7の振動を体験！

### 《第2部》総合消火訓練 （ジュニア防災ミッション）

小学生・中学生4～5人で小隊を編成、小隊長が指令を出し全員で考えながら、4つの消火・防災ミッションを果たします。身を守るための避難の法則「お・は・し・も（押さない・走らない・しゃべらない・戻らない）」をはじめ、消火器の使い方、大人に救助・協力を求める実践訓練など、多様な学びの要素が含まれています。終了後、参加した子どもたち全員に賞品をプレゼントしました。



■ミニミニ消防車  
火災指令を受けて消防車に乗り込み、全員出動です！



■けむりテント  
年長者が年少者の手を取り、壁つたいに避難しました



■水消火器  
水の入った消火器で標的（火）を倒し、災害に備えます



■消防車放水  
消防署員に協力してもらい、ホースの水を標的に当てます

#### <子どもたちの感想>



#### 地域・事業所・行政の力を合わせて



大阪市消防局 住之江消防署 署長 松倉 良友氏

地震を防ぐことはできません、事前に備えることはできません。消防だけの力では限界があり、地域や事業所が協力して対応しなければ立ち向かうことができません。地域・事業所・行政機関が合同で行うこの訓練は、良い事例になると思います。

#### 地域にとって心強い津波避難ビル



さざんか平林協議会 会長 松浦 正明氏

地域や小学校などでも防災訓練は実施していますが、企業と共に訓練は平林地区において、この防災フェスタだけです。災害が起きたとき、地域と共に行動し命を守ろう、という浜野社長のお考えと津波避難ビルに、心強さを感じています。

地域防災活動はサステナビリティの達成に貢献。今後、周辺の被害予想も踏まえたBCP立案を。

大幸グループによる「津波避難ビル兼 車輛センター」の運用、「防災フェスタ」の開催はサステナビリティの達成に十分貢献するものであり、地域の皆様との連携の元、推進いただくことに大きな意義があると考えます。

地震等の発災直後数十時間の「いのちを守る」段階においては、企業のBCPの枠組みで整備された施設を地域住民の方に避難場所等に積極的に活用いただけます。施設の概要、キャパシティ等を近隣の方に知っていただき、信頼関係を醸成する上で「防災フェスタ」のようなイベントは良い機会になるでしょう。一方で、その後の「社会のフローを復旧」する段階においては、BCPの着実な遂行と復旧への貢献が重要となりますので、行政と連携して企業の役割を明確にしていだければと思います。

現在、大幸グループの枠組みの中では十分な取り組みがなされていると思いますが、周辺における社会インフラの被害予想も踏まえたBCPの立案など、真の意味での事業継続性の確保が社会への貢献に繋がると考えます。

加えて防災活動の折に、主たる事業（建設汚泥のリサイクル等）が環境、社会にどのように貢献しているのかについてもご説明等をいただければ、サステナビリティの観点での貢献への理解がより深まるのではないかと考えます。

#### （プロフィール）

大阪大学大学院 工学研究科 教授。博士（工学）。1999年3月、京都大学大学院 工学研究科修士課程修了。京都大学助手、助教、准教授を経て2018年6月より現職。専門は地盤工学、特に改良土や循環資材の地盤材料特性、地中における有害物質の挙動とその対策。



KTK 防災対策実行委員会 委員長 乾 徹氏

# 災害時の消防活動への協力として 大阪市消防局と災害協定を締結

大幸グループは、大阪市消防局の要請を受け、「消火廃液収集運搬の協定」及び「消火廃液受け入れの協定」、「災害時における消防活動への協力に関する協定」を 2023 年に締結しました。民間組織としては、全国的にも先駆的な取り組みとして注目されています。大幸グループの事業ノウハウを用いて消防活動に協力し、社会・地域の安心・安全に貢献していきます。

- ◎消火廃液収集運搬の協定（大幸工業株式会社）
- ◎消火廃液受け入れの協定（大阪ベントナイト事業協同組合）

近年、普及が進む電気自動車（EV）はリチウムイオン電池を搭載しており、火災に遭うと車体ごと水に浸け、数十時間を経過しなければ鎮火できません。2023年3月、災害時における消防活動への協力として、EVの鎮火に用いた水槽水を運搬し（大幸工業株式会社）、中間処理を行う（大阪ベントナイト事業協同組合）協定を締結しました。

2024年7月、EV火災発生により大阪市消防局から支援要請を受け、南港処理センター敷地を提供、EVの鎮火活動が行われ、処理水を大阪ベントナイト事業協同組合で無害化しました。



バケツに水を満たしてEVを浸し、消防局員が鎮火を確認。

- ◎災害時における消防活動への協力に対する協定（大幸工業株式会社）

土砂災害による人命等の救助に向け、大幸グループが保有する強力吸引車等により土砂（泥）の吸引を行い、消防活動に協力する協定を、2023年10月に締結しました。豪雨災害の土砂埋没現場や、生コン製造用サイロ内等での埋没事故現場において強力吸引車を用いることにより、救出活動時間の飛躍的な削減が見込まれます。

同年11月には、舞洲での大阪市総合防災訓練に参加し、南海トラフ巨大地震による水没災害を想定した現場で、消防隊と連携し訓練活動を実施しました。

今後も同局との連携を図り、緊急時の即戦力となるよう取り組んでいきます。



訓練に参加する強力吸引車



大阪市消防局の機関紙「大阪消防」に掲載された大幸グループの記事



## 大阪市消防出初式に吸引車が参加

2025年1月5日、ATC（アジア太平洋トレードセンター）において、令和7年大阪市消防出初式が開催され、「土砂災害や電気自動車火災などで活躍が期待される吸引車」として大幸グループの車両が参加。消防車両や警察車などと共に進み、

式典を盛り上げました。その後、パレードや火災・救助総合訓練のほか、消防車と消防艇による色鮮やかな一斉放水が行われ、会場は新春の華やかな雰囲気彩られました。



消防出初式に参加する大幸グループの吸引車



## 継続的に BCP・防災システムを整備し 持続可能な社会の構築に貢献します

持続可能な社会の実現を目指し、顧客・地域との信頼関係をより強固なものとするため、BCP（事業継続計画）の拠点「津波避難ビル 兼 車輛センター」をはじめとする防災システム整備を継続的に実施し、長期的な視点で事業・従業員・設備、そして地域の皆さんを守る体制作りを進めていきます。

### 津波避難ビル 兼 車輛センター

南海トラフ地震や大和川の氾濫、内水氾濫に備え、大幸グループでは2019年12月に「津波避難ビル兼車輛センター（以下「避難ビル」）」を建設しました。平常時は大幸工業株式会社 運輸部の管理施設として機能しており、20tクラスの車両が通行・駐車する頑丈な構造となっています。津波などの災害時には、車両用スロープが車いすやベビーカーの避難経路になり、高さ7mの屋上、車いす対応トイレも備えた事務所棟へと移動できます。なお、「避難ビル」は、大阪の森林資源由来の燃料を用いた木質バイオマス電力を使用しています。



3mの津波到達時の仮想イメージ

### 拠点ープラント間のリモート接続体制を強化

自然災害などの緊急時に備え、大幸工業株式会社の本社・車輛センター、大阪ベントナイト事業協同組合のプラント等を結ぶリモート接続体制の強化を進めています。

2024年は、本社と堺プラントをモニター接続し、双方同時に朝礼を実施しました。それまで、異なる時間に開始していた朝礼を合同で行い、緊急時に即時、連携会議をスタートするための訓練としています。労働安全衛生に配慮し、持続可能な経営を行う体制づくりの一環であり、今後、他のプラントに広げる計画です。



本社とリモート動画でつながれた、堺プラントの朝礼

### 非常用品の備蓄・更新と自家発電

災害避難が長引く場合に備えて、自治体支給の備蓄品に加え、地域企業の製造する非常食おにぎりなど、大幸グループ独自に物品を購入・備蓄し、消費期限前に更新を行っています。また、「避難ビル」駐車場の最上階に、事務所棟の必要電力をまかなえる大容量出力タイプの自家発電機を設置。さらに、保有する大型車両に機器を接続して電源を確保することも可能です。



非常食、飲料水、ガスコンロ、乾電池、アルミブランケット、トイレ凝固剤等を備蓄



津波避難ビルの自家発電機



## 地域への「津波避難ビル」周知と 災害時の協働に向けた交流活動

大地震、津波などの発災時は、自治体・企業・地域の相互協力が大きな力となります。そのため、平常時から避難場所を確認し、顔の見える関係性を築くことが重要です。大幸グループでは、「津波避難ビル」の周知、地域全体の防災力向上を促進する多様な交流事業を進めています。

### 寄せ植え教室〈第23回〉〈第24回〉

リサイクル土を用い、例年2回、平林福祉会館で開催している地域の「寄せ植え教室」。さざんか平林協議会と従業員が協働して準備を行い、継続的に実施しています。

第23回（2024年2月）は、観葉植物をメインとして寄せ植えを行い、緑の濃淡や赤の色彩が調和した鉢を作成。

第24回（2024年6月）は、色とりどりの華やかな

花を寄せ植えしました。当日は、住之江区役所や住之江警察署からもご参加をいただき、顔の見える関係性づくりに資するべく、実習後に茶話会を開きました。今後も地域の皆さまと共に、持続可能な地域づくり、防災・環境活動を続けていきます。



第24回寄せ植え教室



親睦会の様子



2024年6月18日 第24回

# 防災

## 防災事業〈地域活動〉

### 地域のハロウィン行事に協賛

大幸グループは、「地域みんなで子どもを育てよう」という、さざんか平林協議会（大阪市住之江区）の「ひら子屋」活動に賛同し、2024年もハロウィン行事のお菓子提供に協賛しました。当日 11 月 1 日は雨天のため、平林福祉会館に子どもたちが集まり、ハロウィンソングが流れるなか、地元の協賛企業がお菓子を配布。子ども、大人もハロウィンの仮装を施し、住之江警察署員のキャラクター「ノエにゃん」も着ぐるみで参加して、会場は歓声に包まれました。



地域の協賛企業がお菓子を配布



雨天により平林福祉会館に大集合



### 平林納涼盆踊り大会に参加

大幸グループでは、地域文化・芸能の伝承と交流を目的に、さざんか平林協議会主催で開催される盆踊り大会に参加しています。

2024年8月24日、会場の平林福祉会館前広場に従業員が集まり、かき氷・当て物の屋台スタッフとしてイベントを盛り上げました。



大幸グループのかき氷屋台



盆踊り大会のやぐら



### 子ども会の体育事業後援

地域の子どもの健全なライフスタイル育成、平等で平和な文化の推進を目指す、住之江区子ども会育成連合協議会 体育事業に賛同し、後援を行っています。同事業はソフトボール、キックベースボールなど各種目において活動が続けられており、大幸グループも大会の開会式などに出席し、子どもたちの健康増進と成長を応援しています。



### 中学生の職場体験受け入れ

地域の中学生在が、持続可能な経済活動を促進する知識及び技能、質の高い技術教育・職業教育について学び、将来の社会的自立を促すため、2014年より大阪市立 新北島中学校の職場体験学習を受け入れています。

2024年度は 11 月に男子 3 名、女子 1 名の生徒が参加し、大幸グループの大型車両や重機の死角を学んで安全につながる試乗学習、防災イベントの企画・準備業務、平林地域のふれあい喫茶「ひら茶」での交流食事会などを体験し、2 日間の日程を終えました。



防災フェスタの準備

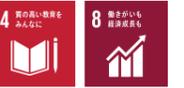


重機乗車体験



# ガバナンス

## 従業員と共に 人材育成



# 多様なライフステージに合わせ、 持続的にいきいきと働ける職場に！

従業員の一人ひとりが働き甲斐を感じ、顧客の信頼に応え、長く働き続けることができるよう、各自のライフステージに合わせて勤務できる体制づくりを目指していきます。組織としてのガバナンス強化に取り組み、時代に合った意識改革、エンゲージメント向上を推進し、グループが一体となって歩みを進めます。また、労働安全衛生、リスクアセスメントへの取り組みを一層強固なものとし、未来に向け着実に前進します。

### 従業員研修

大幸グループでは、入社後 3 カ月間、全部署の業務を学ぶ新入社員研修、管理職によるリーダー育成プロジェクトをはじめとしたセクションごとの研修、各プラントを統括する視点を育み相互活性化を図るプラント人材交換制度等、これまでに取り組んできたさまざまな活動を通し、各分野の人材育成に尽力しています。また、公正採用選考人権啓発推進員の新任・基礎研修への参加等により公正公平な職場環境づくりを促進。事故や課題の共有化によって、より安全な勤務体制と、風通しのよい環境づくり、一人ひとりの資質向上・成長を目指しています。

#### ◎乗務員制度の新たな取り組み

2022年から、事故事例・道路標識・眠気などに関するビデオ乗務員研修をスタートし、法定 12 項目の指導・監督に用いています。2023 年は、ビデオ視聴後、設問に回答し、添削して本人に返却する取り組みを始めました。誤りや思い込みを正し、安全運転につなげることが目的です。

また、同年 4 月から、事故事例の情報を共有するため、大幸工業株式会社および協力会社の車種グループごとに、RCA 分析（根本原因分析）を実施。「なぜ」を繰り返すことで、当時の状況やドライバー心理を探り、対策につなげる取り組みです。リーダーを中心にグループ内で協議し、目標を設定してセンター内に掲示しています。

さらに、ハンドル・アクセルなどを備えた「ドライブシミュレーター」を PC 接続し、危険予測と安全確認の大切さを再認識する研修も行っています。こうした取り組みが、安全意識の向上や安全確認の徹底につながり、事故の減少効果をもたらしています。

グループごとの事故対策ミーティングを開始したことにより、仲間と共に多様な視点で考え、同じ目標に向かって歩む体制づくりが進んでいます。そうした研修やミーティングの成果が、日頃の運転に反映されています。今後も事故ゼロに向けて邁進したいと思います。

グループ協議などが効果を発揮  
運輸部 運行管理者 (統括) カタシ ヒロアキ  
片石 浩啓



ビデオによる法定 12 項目の研修



グループごとの事故対策ミーティング



ドライブシミュレーターによる研修

# 互いに助け合いながら一体となって歩む 〈ダイバーシティ&インクルージョン〉

多様化する価値観、労働人口の減少などを背景に、大幸グループでは、従業員の育児・介護支援などワークライフバランスに配慮し、それぞれの個性・経験・能力を活かして長期的に働ける職場づくり、各自が一体感をもって勤務できる環境づくりを進めています。



運輸部事務員  
堤 里栄

## 出産・育児休暇後の職場支援に感謝

出産・育児休暇を1年3カ月間ほど取得し、復帰後は仕事の勘を取り戻すのが大変でした。子どもが熱を出すと、その初日は母親がそばにいないと收拾がつかないので、お休みをいただきます。備え

として、仕事を先送りにしない、夫と時間調整する、通勤時間を頭の切り替えに使うなど対策を模索する日々…。ですが、職場の皆様のご理解もあり、職域が広がりつつあります。

## 長女・長男の誕生時に育児休暇を取得

結婚と同時に転職入社し、現在はプロア車を運転しています。4歳の長女が生まれたとき1カ月間、また、1歳の長男の誕生時にも2週間ほど育児休暇をいただきました。もともと男性が育児休暇を取得

できるというイメージを持っていなかったのですが、子育て世代にはありがたい職場環境だと感じています。貴重な新生児の成長を間近に見ることができました。



カネナガ ユキ  
運輸部ドライバー 金永 裕樹



運輸部ドライバー  
藤澤 隼人

## 仕事で眠い日も子どもには優しく対応

双子の男児が誕生したとき、2週間の育児休暇を取得しました。今2歳になりましたが、その上に長女がおり、賑やかすぎてケガも多いので目を離すことができません。妻との役割分担として、保育

園へ行く前の準備や洗濯を担当。ドライバー業務で眠いときもありますが、子どもに対しては感情的にならず、優しく接するのが仕事との両立のコツだと思います。

## 大型車は乗用車以上に運転しやすい！

以前、ワンボックスカーを運転し配達業務を行っていましたが、大型トラックを運転したくて転職入社しました。今、プロア車を担当しています。大型車は、上から道路を見下ろす形で視野が広く、

慣れると乗用車より運転しやすいですね。会社が休暇の希望をかなえてくれるので助かるし、人と話すのが好きだから現場・会社でも楽しく仕事ができます。



運輸部ドライバー  
濱野 達矢



営業部長  
岡本 有司

## 責任を果たし、自らの個性を生かして

営業職として大切にしているのは、顧客の要望と現場の現状・処理能力が釣り合い、双方に無理のない形で進めることです。職場の上下関係は互いのリスペクトがあってこそ成立するので、管理職と

して上から目線で話さないよう心がけています。将来の予想図を描き、責任を持って取り組むことができれば、個性を生かし自由に活躍できる職場だと思います。

## 健康で働きやすい環境を提供したい

消耗品等の在庫管理や、上司との連絡・調整といった日常的な仕事から、1年ごとの健康診断の手配、季節ごとの作業着発注、7年ごとに行う処分業の許認可更新申請など、多様なサイクルの業務を

担当しています。自分の段取りだけでは進まない仕事もありますが、職場の皆さんが健康を維持し、気持ちよく働けるよう、お役に立てばうれしいです。



総務部係長  
中村 実邦子



定年後嘱託  
小西 健一

## 経験を活かし、職場の仲間たちと共に

南港処理センターで主にろ過装置の操作を行っています。嘱託社員になる前からバックホウの免許を持っており、脱水ケーキを均す作業等もこなしています。また、トラックでプラントに土を運ん

だ経験もあり、全体の流れを理解できているため働きやすいですね。近年、体調を崩し仲間にも助けてもらいましたが、これからは体を大事にし、安全第一で頑張ります。

## 高品質の製品を提供し環境にも貢献

大学で環境工学を学び、建設関連の業務に就いたのち入社しました。堺プラントで流動化処理土「ポリソイル」や再生土「ポリアース」の品質管理を担当。また、製品を打設する前の現場試験等も行っ

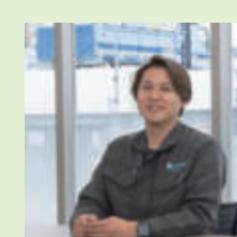
ています。顧客から高い評価をいただいている製品なので、その信頼に応えられるよう今後も頑張ります。上司の勧めでコンクリート技士の資格も取得できよかったと思います。



プラント技術者  
中野 貴史

## 〈コラム：資格・免許取得を強力サポート〉

車輛センターにおいて安全・確実な輸送を管理する運行管理者や、プラントにおける重機オペレーターの各種資格・免許の取得を支援するため、研修への参加費や、資格試験・免許取得に関する費用負担を実施しています。資格・免許の取得は、業務上の必要性ばかりでなく、個人の技能を伸ばし成長を促すため、大幸グループを挙げて推奨しています。



運輸部 藤澤 隼人

上司のオファーで牽引免許を取得2年ほど前、先輩から声掛けいただき、牽引免許（750kg超のトレーラー等をけん引するための運転免許）を取得しました。現在、ときどき20tトレーラーを運転し、難しいバックもスムーズになりました。技術力が向上し、多くの車種に乘れるのがメリットです。

# 健康を保持して意欲を高め、大幸グループ一丸となって進む

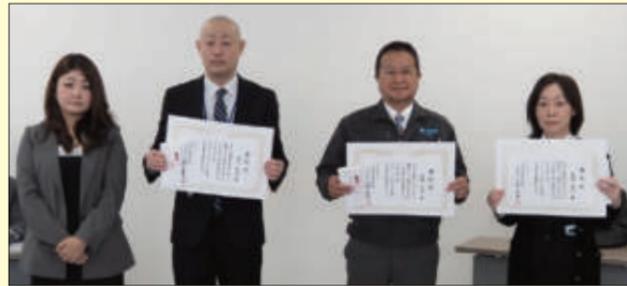
従業員の意欲・成果を評価し、応援するため各種の表彰制度を設けています。また、福利厚生の一環として人間ドックの利用を促進。そのほか、グループの目指す方向性を示す情報誌を発刊しています。



## グループ内表彰

### ■ 勤続表彰 ■

大幸グループでは、長く職場の戦力として実績を積んだ従業員に対し「永年勤続表彰(10年・20年・30年)」を行っています。また、定年退職者に、親睦会より感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈しています。



さらに、働きがいのある職場づくりに向けて、「優良従業員表彰」「優良乗務員表彰」および、洗車に特別努力した乗務員へ「車両ぴかぴか賞」の表彰を実施しています。

### ■ 優良従業員表彰 ■



## 健康診断と人間ドック



若年から壮年、熟年に至るすべての従業員の健康と福利厚生を推進するため、大幸グループでは健康診断(特定健診・特定保健指導)に加え、人間ドックの利用促進にも力を注いでいます。これらは、疾病・潜在疾患の早期発見、予防、適切な治療への導線となるものです。人間ドックは、従業員の高額負担抑制に向け大部分を補助し、気軽に利用できる体制を整えています。

また、働き方改革の一環として、有給休暇の取得しやすい環境づくりを促進し、有意義な休暇と休息による心身の健康増進と、生産効率の向上を目指しています。

## 大幸グループ通信



大幸グループ全体の情報共有を目的とした情報誌を、隔月サイクルで刊行しています。内容として、私たちが関わる環境事業の現況と今後の方向性、地域の情報、行政の指導や指針の紹介、関連企業の最新情報などを掲載。すべてのスタッフと、その家族に向けて、環境事業内容と目指すベクトルについて広報を行い、グループ・関連企業の一体化と環境意識の啓発に努めています。



# 責任意識を重視したリスク管理、グループ目標と社会倫理の理解・実践

安全衛生、危機管理、セキュリティといった各分野において積極的にコンプライアンスに取り組み、従業員への啓蒙・教育と周知徹底に努めています。また、従業員の一人ひとりが大幸グループの目指す持続可能な方向性を理解し、守るべきルールを順守して、有効・効率的かつ適正に行動するよう指導しています。



## 労働安全衛生への取り組み

大幸グループの安全衛生への取り組みは、朝礼および報告・連絡・相談・確認の徹底、そして的確なマニュアルを基にした柔軟な現場対応、特に責任意識の徹底に重点を置いています。マニュアルがたとえ完成されたものであっても、それにすべてを依存するのではなく、臨機応変に対応する、体で判断するというのが危機管理には必要不可欠な要素であるからです。特に当グループの場合、プラント、各部署によって業務の事情や状況が異なり、各プラントだけで取り扱う物や処理薬などにより対応すべき課題は違います。



具体的には、各プラントの処理業務に応じたそれぞれに求められる的確で即時的な危機管理体制を目指し、作業着・靴・手袋・マスク等の着用といった基本的な作業姿勢、熱中症対策として水分・塩分補給の徹底、状況に応じた管理体制を、それぞれが目的意識を持って取り組んでいます。

## リスクアセスメントの実施

業務には絶えずさまざまな危険因子が潜んでいます。その危険度に応じた評価を判定し、危険因子への対応策に優先順位をつけて意識的に確認しています。例えば、日々の朝礼時にKY(危険予知)ミーティングを実施しており、その日の作業内容から危険要因を指摘し合い、危険を回避するための対策を決めてから作業に取り掛かっています。

営業活動の段階でも、危険を伴う処理の契約時には有害・危険物質の存在と状況の説明、受け入れ場所やドライバー等の条件に基づいた処理要領、危険度に応じた対応を確認しています。

また、事故発生時の各責任者の対応マニュアルについては、熟練の現場担当者が主体となって作成することになっています。

## 健全な経営を目指すコンプライアンスと教育

コンプライアンスは一般に法令順守と解釈されていますが、法の規定だけにとらわれ、厳密な規制のみ受容すると、企業としての発展性は損なわれる可能性があります。法の精神は守るべきものとし、単純な社内制度化でなく、組織が何をビジョンに機能しているのかを従業員全体が理解して、未来につながる企業へと成長していかなければなりません。企業活動を損なう反社会的勢力に対する対応には、専従の担当者を配置して万全の態勢を取り、断固として非暴力の推進を進めています。

また、グループ内の事例はもとより、ニュースの事件事例も参考として、従業員への教育・啓蒙活動を実施し認識の周知徹底を図っています。特に車両運行では、ドライバーとしての責任と自覚を携え、組織の名前を記した車両を運行していることの重要性、状況に応じた適切な対応を行っています。

## 情報セキュリティ管理

情報通信の進化によって、情報管理の重要性が高まっています。情報漏えいに関しては、組織としても自己防衛の的確な形を作っていくことが必要となっています。個人情報保護法や法令による規制はあるものの、やはり従業員全員が自覚と認識をもって大切な情報を保護しなければなりません。大幸グループは情報の管理をブロックごとに行い、その責任体系を明確にするとともに、必要な情報の共有という問題に取り組んでいます。

# サステナビリティ社会を目指して 共通課題や情報を共有し機運を醸成

大阪ベントナイト事業協同組合と、その施設利用企業や、つながりの強い企業などが、大同団結と資質向上を目指して、1994年に「大阪ベントナイト事業協同組合 環境対策協議会(KTK)」を設立しました。現在、会員として105社 (2024年12月現在)が参加しており、多様な力を集約して環境問題や廃棄物処理業界の課題を共有し、会員の技術・知識、モチベーションの向上に取り組んでいます。

## 2024年 活動内容

■1月26日(金) 令和6年 新年研修会・互礼会  
(場所: スイスホテル南海大阪)



■4月12日(金) 第31回通常総会・講演会・懇親会  
(場所: シティプラザ大阪)



優良従業員表彰

■令和6年度 夏期研修会 (7月19日)  
(場所: シティプラザ大阪)



### ● 研修会

大阪大谷大学 教育学部  
学部長 教授  
地下 まゆみ氏



「持続可能な社会で共に生きる」  
地球環境を大切にするために取り組まなければならない課題 「①地球温暖化を防ぐカーボンニュートラル実現、②自然災害 (地震・気象災害) への対応」 について。

### ● 講演会

京都大学  
総合地球環境学研究所  
教授 浅利 美鈴氏



「ごみを見つめて未来を変える  
SDGs とごみ対策 (エシカル消費)」  
分野を超えて学際研究に取り組む大学共同利用機関「総合地球環境学研究所」の活動、SDGs とごみ対策 (人・社会・地域・環境に配慮した消費行動) について。

### ● 研修会

大阪府東警察署 交通課  
交通総務係 警部補  
谷村 英恵氏



「最近の交通情勢」  
昨今の交通情勢を鑑み、注意すべき事柄について。子どもと高齢者の交通事故防止、自転車の安全利用の推進、二輪車の交通事故防止、飲酒運転の根絶など。

■KTK 杯ゴルフコンペ  
(第25回5月14日/第26回11月12日)



場所: 大阪ゴルフクラブほか

■ボランティア活動  
第17回 KTK 道路清掃美化キャンペーン (10月27日)

## 【環境対策協議会 青年部】

### 2024年 活動内容

会員各社の次期経営陣を中心とする青年部では、研修会や施設見学会等を通して、相互理解や共存発展の意識、知識・技術力を醸成します。つながりの強化により、新たな事業やプロジェクトを創出する可能性や、経営上のヒントなどを得ることができ、若い会員相互のシナジー効果を目指す活動です。

■第29回 青年部総会 (2024年4月12日)  
場所: シティプラザ大阪)



■第23回 ボウリング大会 (2025年2月15日)  
場所: ラウンドワン堺店



■KTK 施設見学会 (9月6日~7日)



場所: 浜松市沿岸域防潮堤 (静岡県浜松市)

### ● 見学会内容

津波・浸水被害を減災する 17.5km に及び整備区間の見学。産学官民による「静岡方式」で、CSG 工法を用いて 2020年3月竣工。先進的な防潮堤「一条堤 (づつみ)」の取り組みを学ぶ。

■研修会・暑気払い (8月2日)  
場所: 大幸工業 (株) 車輛センター 3F 研修室  
●研修会内容: 資産運用・相続・事業承継対策について

■親睦ゴルフコンペ (10月4日)  
場所: 泉ヶ丘カントリークラブ

■施設見学会 (11月7日~8日)  
場所: エコパーク宮古

■忘年会 (11月29日)

# 大幸グループ「CSR 報告書」を用いた 持続可能な開発のための教育への支援

環境省・環境報告ガイドライン（2018年版）対照表に準拠して企画・制作を行った「大幸グループ「サステナビリティレポート」」(本誌)。その前身である「CSR 報告書」は、大学生や新社会人等の皆さんに企業の社会貢献活動を知っていただくため、大学の授業や社会人研修において ESD（持続可能な開発のための教育）教材として使っていただけるよう編集しています。これまで、国立大学（北海道大学、大阪大学、長崎大学）等における CSR/ESG/SDGs 講座の教材として用いていただきました。

2025年1月27日、長崎大学の多文化社会学部、

教育学部、経済学部、薬学部、水産学部の1年68名を対象とした大嶺聖教授の指導による教養教育の授業が行われ、大幸グループでは、CSR 報告書 2023 を用いて企業の社会貢献活動を説明、また「身の回りの中の物理科学」というテーマで、粘土鉱物を使った出前授業のお手伝いをさせていただきました。授業には、大幸グループ役員らが、対面およびリモートのハイブリッド形式で、大嶺教授のサポートとして参加させていただきました。なお、今回は嘉門雅史 京都大学名誉教授にリモートでご聴講いただき、学生の皆さん、講師にとっても有意義な時間となりました。



長崎大学、教養教育の授業



京都大学 名誉教授  
嘉門 雅史 氏



長崎大学大学院 教授  
大嶺 聖 氏



出前授業に参加する大幸グループ浜野真季・壮真



## 大幸工業株式会社

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37  
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1-18-6  
クロスオフィス内幸町12階  
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬  
浚渫工事の施工及び請負 流動化処理土の販売  
一般貨物自動車運送事業 特定旅客自動車運送事業  
土木、建築工事の施工及び請負 各種清掃業

## 大阪ベントナイト事業協同組合

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37  
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004

汚泥・廃酸・廃アルカリの中間処理、流動化処理土の製造  
組合員の取扱う汚泥の共同処理  
組合事業の知識普及をはかるための教育・情報提供

## 堺大幸工業有限公司

〒590-0063 大阪府堺市堺区中安井町3-4-10  
TEL 072-238-3059

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬  
土木、建築工事の施工及び請負

## 大幸工業株式会社 泉佐野

〒598-0007 大阪府泉佐野市上町2丁目2-11  
光ビル2階  
TEL 072-429-9147 FAX 072-429-9146

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬  
浚渫工事の施工及び請負 一般貨物自動車運送事業  
ビルメンテナンス業

## 北部大幸工業有限公司

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4-5-13  
TEL 06-6226-0882

汚泥・廃酸・廃アルカリの収集運搬  
土木、建築工事の施工及び請負

## 有限会社大幸リース

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2-8-37  
TEL 06-6686-0005 FAX 06-6686-0002

機械のリース、運搬車両のリース



## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

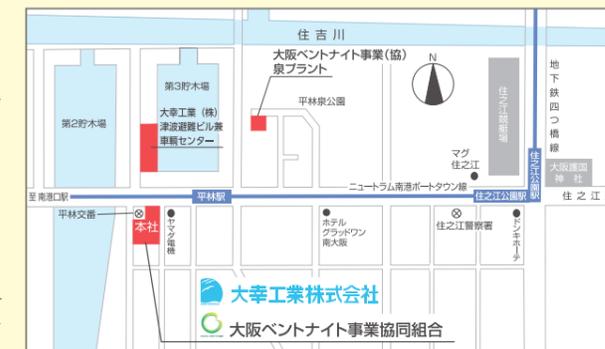


## 大幸工業株式会社

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号  
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002  
東京支店 〒105-0003 東京都港区西新橋1丁目18番6号  
クロスオフィス内幸町12階  
TEL 03-5501-1370 FAX 03-5501-1371

## 大阪ベントナイト事業協同組合

本 社 〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号  
TEL 06-6686-0003 FAX 06-6686-0004



# 大幸グループサステナビリティレポート 2024

アンケートへのご意見、ご感想を  
お聞かせください

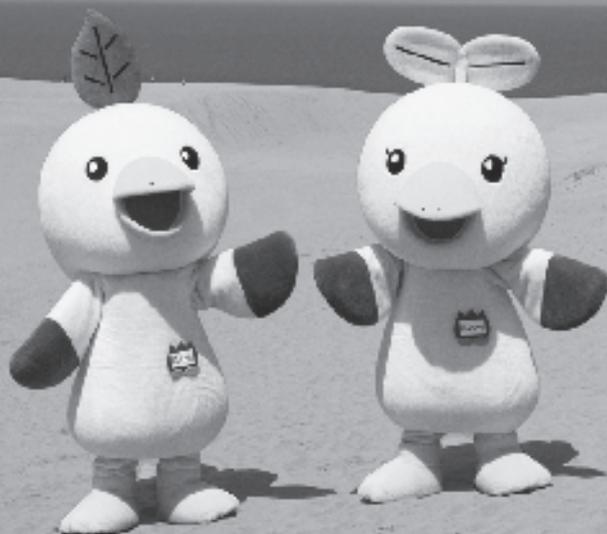
大幸グループサステナビリティレポート2024を

ご覧頂き、ありがとうございました。

皆様からご意見・ご感想をお聞かせ頂き、  
当グループの企業活動及び今後の報告書づくりに

活かして参ります。お手数ですが、

裏面にご記入の上お送り頂ければ幸いです。



# FAX:06-6686-0002

【お問い合わせ先】

大幸グループサステナビリティレポート事務局

〒559-0025 大阪市住之江区平林南2丁目8番37号  
TEL 06-6686-0001 FAX 06-6686-0002

# 大幸グループサステナビリティレポート 2024 アンケート

大幸グループサステナビリティレポート事務局宛

E-mail:sea-mew@daiko-group.com  
FAX:06-6686-0002

皆様のご意見・ご感想を、今後の活動や報告書作成に生かして参ります。  
お手数ですが、下記のアンケートにご回答頂き、FAX や Eメールなどでご返送頂ければ幸いです。

## Q1 この報告書をどのようにしてお知りになりましたか。

- 当グループからの送付 当グループウェブサイト 当グループ以外のウェブサイト 当グループ社員から  
セミナー・講演会 その他 [ ]

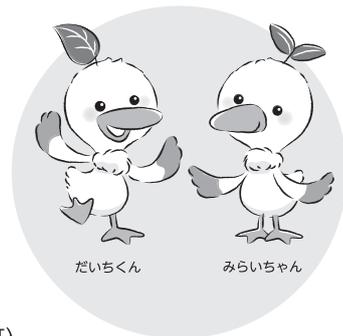
## Q2 大幸グループ 2024 サステナビリティレポートについての評価をお聞かせ下さい。

1. 全体的な印象 良い 普通 悪い  
2. 分かりやすさ 分かりやすい 普通 分かりにくい  
3. 内容の充実度 充実している 普通 物足りない  
4. 情報量について 適切 不足 多い  
5. デザイン 良い 普通 悪い

\*悪かった点、分かりにくかった点等をお聞かせ下さい。

(

)



## Q3 この報告書の中で関心をお持ちになった内容をご選択ください。(複数選択可)

- Top Message 新時代に向けての取り組み 環境省・環境報告ガイドライン対照表  
環境／カーボンニュートラルCO<sub>2</sub>固定化 環境／環境教育／子どもベジタブルガーデン、KTK道路清掃美化キャンペーン  
環境負荷軽減 環境方針・認証 防災／BCP経営と防災・減災対策／防災訓練 防災／災害協定  
防災／防災事業(体制整備) 防災／防災事業(地域活動) ガバナンス／従業員と共に／人材育成  
ガバナンス／多様性(D&I) ガバナンス／グループ内表彰ほか、労働安全とコンプライアンス 環境対策協議(KTKの活動)  
ESD教材としての活用

\*その理由をご記入ください。(

)

## Q4 大幸グループのサステナビリティレポート活動や報告書について、その他ご意見・ご感想などがあればご記入ください。

## Q5 あなたのプロフィールについてお聞かせ下さい。

- ・お読みになった立場 お客様・お取引先 企業のCSR・環境ご担当者 当社グループの近隣にお住まいの方  
行政機関 金融・投資機関 NPO・NGO 研究・教育機関 学生  
報道機関 当社グループ社員・家族 その他 [ ]
- ・年代 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
- ・性別 男性 女性

## Q6 次回のサステナビリティレポートの発送を希望されますか。

- はい いいえ

ご協力ありがとうございました。差し支えなければ下記にもご記入ください。

※次回のサステナビリティレポートの発送を希望される方は、お名前とご住所を必ずご記入ください。

お名前

ご職業 (勤務先・学校名)

連絡先電話

ご住所 (□ご自宅 □勤務先等) 〒

メールアドレス

ご記入頂いた個人情報及び内容は、今後のサステナビリティ活動の参考のみに利用し、他の目的には利用いたしません。